

(株) 勝島経営研究所

環境活動レポート

Management Design Office
KATSUSHIMABiz
For sensitive management

平成21年6月 決算版

環境方針

外部環境へ順応するために内部環境を変革し、
社会貢献の一端を担う企業として、
地域社会の環境保全活動に尽力します。

1. 当社の業務及びサービスが与える環境影響を適切に把握するために、環境負荷・取組への評価を行います。
2. 評価に基づき環境目標を設定し、定期的に見直して、全従業員で継続的な改善に取り組みます。
3. 当社の事業に関連する環境の法規制及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 重点的に以下の項目について、活動計画を策定し、実行します。
 - ① 電気消費量の削減
 - ② ガス・水道消費量の削減
 - ③ ガソリン消費量の削減
 - ④ 廃棄物の削減・リサイクルの推進
5. 朝礼・定期ミーティングを通して、本方針を全従業員に周知するとともに、環境保全の重要性に対する自覚と意識向上を図ります。
6. 当社の活動内容は、『環境活動レポート』として、一般の方々に閲覧できるように致します。

平成17年7月11日 制定

(株)勝島経営研究所
代表取締役 勝島朝子

会社概要

事業者名

株式会社 勝島経営研究所ビジネスカツシマ
代表取締役 勝島 朝子

所在地

新潟県上越市栄町2丁目3番3号

環境管理責任者（環境コミュニケーション窓口）

二宮 直人・岡 潤一

会社の規模

設立：1990年7月14日
資本金：1000万円
社員数：18名
延べ床面積：305.2㎡

事業内容

アカウンティング事業

- 月次試算表、決算書類作成及び経営指導
- 経営分析、事業計画書作成 ○カツシマ通信発刊
- 決算報告会 ○株式評価 ○標準保障額算定
- 相続シュミレーション

コンサルティング事業

- HP作成、運営支援 ○ITソリューション支援
- マーケティング支援 ○各種研修会 開催
- ISO9001、14001認証支援 ○EA21認証支援
- 資産運用支援 ○不動産仲介

アウトソーシング事業

- 総務代行業務 ○営業支援業務

環境目標と実績

項目	2009年目標	2009年実績	達成状況
総エネルギー投入量	2005年数値の5%削減	25.4% 削減	○
総物質投入量	2007年数値の5%削減	1.9% 削減	×
水資源投入量	2005年数値の5%削減	28.1% 削減	○
温室効果ガス排出量	2005年数値の5%削減	25.0% 削減	○
廃棄物等総排出量	2008年数値の5%向上	循環資源量 11.7% 減少	×
	2007年数値の5%削減	最終処分量 75.4% 削減	○

※ 2009年度＝平成20年7月～平成21年6月

環境目標と実績-2

1. 総エネルギー投入量

項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
電 気	26,366	36,002	-26.8 %削減	kwh
	投入量・当期	投入量・2005	比較	単位
	259,177.78	353,899.66	-26.8 %削減	MJ
項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
ガ ス	296	335	-11.6 %削減	m ³
	投入量・当期	投入量・2005	比較	単位
	12,165.6	13,768.5	-11.6 %削減	MJ
項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
ガソリン	5,530.78	7,398.10	-25.2 %削減	ℓ
	投入量・当期	投入量・2005	比較	単位
	191,364.99	255,974.26	-25.2 %削減	MJ
項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
灯 油	72.0	0.0	- %	ℓ
	投入量・当期	投入量・2005	比較	単位
	2,642.4	0.0	- %	MJ
合 計	投入量・当期	投入量・2005	比較	単位
	465,350.77	623,642.42	-25.4 %削減	MJ

※総エネルギー投入量＝消費量×単位発熱量

単位発熱量：電 気 9.83 (MJ/kWh)

ガ ス 41.1 (MJ/Nm³)

ガソリン 34.6 (MJ/ℓ)

灯油 36.7 (MJ/ℓ)

環境目標と実績-3

2. 総物質投入量

資源の種類	当 期	比 較			単位
印刷・コピー用紙	920.6	-1.9	%	削減	Kg
	2007年度				
	938.8				

3. 水資源投入量

項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
上水道	269	374	-28.1 %削減	m ³

4. 温室効果ガス排出量

項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
電 気	26,366	36,002	-26.8 %削減	kwh
	排出量・当期	排出量・2005	比較	単位
	9,966.35	13,608.76	-26.8 %削減	Kg-CO ₂
項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
ガ ス	296	335	-11.6 %削減	m ³
	排出量・当期	排出量・2005	比較	単位
	624.10	706.32	-11.6 %削減	Kg-CO ₂
項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
ガ ソ リ ン	5,530.78	7,398.10	-25.2 %削減	ℓ
	排出量・当期	排出量・2005	比較	単位
	12,840.59	17,175.87	-25.2 %削減	Kg-CO ₂
項目	消費量・当期	消費量・2005	比較	単位
灯 油	72.00	0	- %	ℓ
	排出量・当期	排出量・2005	比較	単位
	179.42	0.00	- %	Kg-CO ₂

環境目標と実績-4

4. 温室効果ガス排出量

合 計	排出量・当期	排出量・2005	比較	単位
	23,610.45	31,490.95	-25.0 %削減	Kg-CO ₂

※温室効果ガス排出量＝消費量×排出係数 ①

or 消費量×排出係数×単位発熱量 ②

排出係数	電 気	0.378	①
	ガ ス	0.05	②
	ガソリン	0.07	②
	灯油	0.07	②

5. 廃棄物等総排出量

資源の種類	当 期	2007・2008	差 引	単位
白上質紙	0	75.1	-75.1	Kg
新聞紙・雑誌類	316.9	317.7	-0.8	Kg
ダンボール	70.6	74.6	-4.0	Kg
セキリティ文書	440	530	-90.0	Kg
缶	11.7	20.1	-8.4	Kg
ビン	8.75	15.9	-7.2	Kg
ペットボトル	11	14.3	-3.3	Kg
紙パック	51.1	57.8	-6.7	Kg
プラスチック	60.6	68.7	-8.1	Kg
その他可燃ゴミ	110.3	413.9	-303.6	Kg
その他不燃ゴミ	17.2	28.6	-11.4	Kg
			比 較	増 減
循環資源量	970.65	1099.1	-11.7	%減
最終処分量	127.5	517.6	-75.4	%減
総排出量	1098.15	1616.7	-32.1	%減

※循環資源量 (リサイクルされるもの)

- ・新聞紙・ダンボール・缶・ビン・ペットボトル・紙パック
- ・プラスチック・雑誌・セキリティ文書

※最終処分量

- ・白上質紙・可燃ゴミ・不燃ゴミ

主要な環境活動計画の内容

環境目標を達成する為の取組

☆電気消費量の削減

- ・外出時、各自PCの電源ダウン・省エネ電球への切替
- ・クールビズ・ウォームビズ実施
エアコン 夏場 28℃ 冬場 20℃ 設定
社内ではノーネクタイ
- ・ブラインド、扇風機による室温、空調管理

☆ガス消費量の削減

- ・湯沸し時の火力調整に気をつける
- ・夏場の給湯器使用を控える

☆水道消費量の削減

- ・トイレタンクに水入りペットボトル投入し
貯水量を削減する
- ・蛇口の水漏れ、出しっ放しに注意する

☆ガソリン消費量の削減

- ・燃費向上器具、ランナップを車輛の
給油タンクへ投入 3台実施中
- ・その他燃費向上器具の調査、取付 リッツ1台実施中
- ・安全運転によるエコドライブ実施
- ・方向、路線を考慮した車輛の計画的共同利用
の実施
- ・車輛別の月次燃費を測定し、良燃費車の
使用頻度を向上させる
また、燃費不良車の廃車等を検討
- ・不良燃費車両の駐車場所変更

主要な環境活動計画の内容-2

環境目標を達成する為の取組

☆廃棄物の削減・リサイクルの推進

- ・印刷時の裏紙使用、裏紙トレーの設置
- ・両面コピー、2up印刷の推進
- ・メール、サイボウズ（グループウェアソフト）の活用による紙使用量の削減
- ・月末のコピー用紙在庫管理による月次使用量の把握
- ・分別ゴミの推進
- ・日々のゴミ排出量を秤により測定し、排出状況を確認する
- ・使用済み封筒の再使用
- ・通い箱（エコバック）の推進
- ・グリーン購入 A4白・B4白 再生紙購入
- ・機密文書はリサイクルセンターにて廃棄

☆環境教育

- ・車両別燃費チェック
- ・EA21の運用、管理
- ・緊急事態への対応
- ・環境上の法規制 当社の責務について

☆環境ボランティア活動への参加

- ・19年8月、20年4月に環境クリーン活動（地域清掃）実施

☆中期環境目標

- ・2009～2010 各目標により、2005・2007・2008年数値の5%削減・向上
- ・2010～2011 各目標により、2005・2007・2008年数値の5%削減・向上

環境活動の取組結果の評価

☆総エネルギー投入量・温室効果ガス排出量について

電気については消費量を26.8%削減、ガスについては11.6%削減、ガソリンについては25.2%削減となった。

総エネルギー投入量は、25.4%の削減、温室効果ガス排出量は、25.0%の削減となった。

来期は社外研修会への参加や、ランナップ等の効果を継続的に測定し、投入車両の増加や別の燃費向上器具の調査を行い導入を推進する。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
	H20.6 時点		
総エネルギー対策	28	12	42.9
H21.6 時点			
	28	12	42.9

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
	H20.6 時点		
温室効果ガス対策	46	44	95.7
H21.6 時点			
	46	44	95.7

環境活動の取組結果の評価-2

☆総物質投入量について

印刷・コピー用紙については、1.9%の削減となったが、目標とする5%削減には至らなかった。

原因としては、期末に実施された当社主催のサマーセミナーにおいて資料印刷が増加したためと考えられる。

よって、業務上止むを得ない増加として捉え、来期以降は繁忙期や季節変動を考慮しながら目標を定め、裏紙使用などの活動を継続し、よりいっそうの投入量削減を目指す。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
	H20.6 時点		
包装材等消費対策	34	12	35.3
H21.6 時点			
	34	15	44.1

☆水資源投入量について

投入量は、28.1%の削減となった。

来期以降も目標を達成できるように、効果的な活動を継続して実施していく。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
	H20.6 時点		
水資源投入対策	16	10	62.5
H21.6 時点			
	16	10	62.5

環境活動の取組結果の評価-3

☆廃棄物等総排出量について

循環資源量については、11.7%のリサイクル率の減少、最終処分量については、75.4%の削減となった。

リサイクル率が減少した原因は、セキュリティ文書類の計画的な廃棄が実施できず、書庫に書類を溜め込んで廃棄しなかったことが要因と考えられる。

最終処分量の削減については、白上質紙のシュレッダー廃棄を減少させ、機密文書としてリサイクルセンターにて処分し循環資源化できたことが、大きな成果となった。

来期以降も業務上の繁忙期や季節変動を考慮しながら目標を定め、これまでの活動を継続し、よりいっそうの排出量削減・リサイクル率向上を目指す。

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
廃棄物排出対策	H20.6 時点		
	50	50	100.0
	H21.6 時点		
	50	50	100.0

環境への取組の自己チェックの結果

	総合点	評価点	達成率%
環境経営システム	H20.6 時点		
	88	69	78.4
	H21.6 時点		
	88	69	78.4

総括

当社は、E A 2 1 の取組において、「企業の活動性を犠牲にしない」こと、「企業内のストレスを増やさない」ことを第一と考えてきた。

だれもが始められ、続けられる「記録すること」のできる削減、言わば「CO₂レコーディングダイエット」を実践してきた。

「CO₂レコーディングダイエット」による削減は、当社の初期の目標を充分達成している。

今後は、社内の人間エネルギー、やる気、パワーを損なわないことを前提に、リバウンド無き環境企業体質の維持を目標としたい。

一方、社外に向けた活動は積極的に展開して行きたい。

前期に揚げた対外活動は、当社の得意分野である、CO₂を計る能力、CO₂を削減する能力、コストダウンの能力、会社の仕組み創りの能力を活用することだった。

これを継続し、E A 2 1 の活動を当社以外の企業・団体に広げる広報活動、E A 2 1 認証支援活動を推し進める。

加えて、排出削減だけでなく、吸収量を増やす活動を開始する。

温室効果ガスの吸収に対する認識として、海洋が80%、森林が20%と言われており、荒廃している森の整備や耕作放棄地への植樹などの取り組みを開始したい。

代表取締役 勝島朝子

環境関連法規への違反、訴訟等の有無

主な適用法規	該当する活動
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	第3条 事業者の責務
家電リサイクル法	第6条 事業者及び消費者の責務
パソコンリサイクル法	第4条 事業者等の責務 第5条 消費者の責務
グリーン購入法	第5条 事業者及び国民の義務

☆違反、訴訟等について

環境関連法規への違反は無し。なお関係機関等からの指摘は無く、訴訟等についても同様に1件も無し。
なお関係機関等からの違反等の指摘は過去3年間ありません。

株式会社 勝島経営研究所ビジネスカツシマ

〒942-0072 新潟県上越市栄町2丁目3番3号

連絡先 TEL 025-545-5678

FAX 025-545-5677

URL : <http://www.0255.co.jp/katsushima/>

E-mail iso@0255.co.jp

担当者 岡